

# 検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報 [号外] 2009年6月24日 発行 日本鉄道労働組合連合会 (JR連合) 【No.24】

## 何でも 権力の謀略」と叫ぶ異常組織と訣別しよう！

これまで、JR総連と革マル派が内ゲバを「権力の謀略」と主張する特異な考え方について検証してきたが、最後に、東労組元会長の松崎氏が「週刊現代裁判」で2009年1月26日に自らこの問題に関する見解について証言した内容を紹介したい。松崎氏も内ゲバは「権力の謀略」と信じて疑っていないようだ。

(被告代理人)内ゲバについて、革マル派は、権力の謀略グループによる犯行という見解を持っていることは御承知だと思いますけれども、あなた御自身いわゆる内ゲバというものについて、権力の謀略グループによる犯行が一部にでもあるとか、そういった可能性があるとか、あるいはそれはないと、どのようにお考えですか。(松崎) そういう可能性はあるんじゃないですか。(被告代理人)何か根拠のようなものはありますか。(松崎)これはですね、水戸で襲撃される可能性があるということを知った、これは鮮明に覚えています、湯原君というのが警察に連絡をして、パトカーが家のところにいたにもかかわらず、そのような事件が起ってしまったことがありましてね、これは何なんだよとそのときは思いましたね。

### JR総連も革マル派も中核派も 国家権力の弾圧」とする主張は同じ！

JR総連も革マル派も、自らが受けている攻撃をすべて「国家権力の弾圧」「警察の仕業」と訴える主張や思考回路は、非常に酷似しており、まことに興味深い。中核派は本情報(No.22)で紹介した機関紙「前進」にあるように、「警察=カクマル連合」と、反対に、革マル派が警察と結託していると主張しており、さらに、わけがわからなくなってくる。

いかに荒唐無稽でも、革マル派は、自己批判までさせて珍説を信じ込ませ、それがJR総連幹部の発言に反映されているのでは、と疑わざるを得ない。JR総連のこうした常識ではとても理解できない主張は、およそ普通の労働組合のものとは思えない。ただし、JR総連の執行部に浸透する革マル派が、そう主張していると考えれば、合点がいくが...

この主張は浦和電車区事件に対するJR総連・東労組の見解と同じ構図だ。彼らは、警察のみならず、裁判所も国家権力の側にあるとみている。参考までに2009年6月8日のJR総連第25回定期大会で決議された「蒲郡駅事件・浦和電車区事件の『不当判決』に怒りを持って抗議し、反弹圧の戦線をさらに推し広げるための特別決議」の一部を紹介したい。

これらの不当判決に共通しているのは、あらかじめ有罪ありきの恣意的な判断である。いずれも公安警察によってJR総連・各単組、及び組合員への不当逮捕や不当な家宅捜索が仕組まれて事件」がでっち上げられ、検察や裁判所がそれを追認するという 極めて政治的な 国策弾圧」の構図がつくられている。いまや司法の独立性はその仮象すらなく捨て去られている。そして過激派・テロリストキャンペーンを流布し、国家権力によって主導されたこのような弾圧に、マスコミや一部会社幹部、JR連合、嶋田一味などが組み込まれてきたことは言うまでもない。

JR総連の運動方針の第一番目は「弾圧粉碎の闘い」である。これが普通の労働組合なのか。JR総連の良識ある一般組合員の皆さんは、不都合なことは何でも「国家権力の弾圧」と叫ぶ異常な組合から、一刻も早く訣別されるよう強く訴えたい。

検証・JR革マル浸透と組織私物化の実態！」はJR連合ホームページに掲載中！ <http://homepage1.nifty.com/JR-RENGO>